

クリーンセンターだより 第7号



木々も色づき、朝夕の冷え込みも日増しに厳しくなってきました。
食欲の秋、読書の秋…。みなさんは、どのような秋を迎えられましたか？

発行日：平成20年11月10日
発行元：津山市クリーンセンター
建設事務所

電話：32-7017

F a x：32-7019

質問やご意見をお寄せください。

メールでの質問は、ホームページから
お寄せください。

クリーンセンター建設事務所では、建設検討委員会、技術審査委員会の開催、環境影響評価の現地調査など、あわただしい毎日を送っています。

また、10月17日には先進視察研修として、「ささゆりクリーンパーク(岐阜県可児市)」へ久米地域、鏡野町郷地区の方々の総勢105名で行って来ました。

第1回 (仮称)津山・英田圏域クリーンセンター建設検討委員会を開催しました。

9月29日、津山市役所本庁大会議室において、第1回 (仮称)津山・英田圏域クリーンセンター建設検討委員会を開催しました。

委員17名(1名欠席)に対し、津山ブロックごみ処理広域化対策協議会長(桑山博之 津山市長)から委嘱状が交付され、委員会の役割について確認し、今後のスケジュール、圏域のごみ処理の現状、現在のごみ処理方法等についての説明を行いました。

質 疑

これまでの説明会では、既に焼却方式が決まったような印象を持っていたが、まだ決まっていないのか？

焼却方式はまだ決まっていません。ただ、説明会の中で灰の処理が一番問題となっていることもあり、灰の処理方法として「灰を溶融しスラグ化し、再利用を図る方法がある」という説明を行っています。

また、視察で見ていただいた施設は、近年建設された施設が多いため、灰溶融の印象が深いとは思いますがそのタイプの焼却方式にきめたと言うわけではなく、あくまで参考です。

焼却方式については、技術、安全性、コスト等を含め、専門的な見地から技術審査委員会で審議いただいた結果を踏まえて決定します。

(仮称)というのはいつになったら取れるのか。また、名称はいつ決まるのか。

今の「津山ブロックごみ処理広域化対策協議会」は任意の団体ですので、仮称ということですが、来年4月には一部事務組合を発足する予定です。それまでには一部事務組合の名称をブロック協議会内で協議し、決めたいと考えています。

また、クリーンセンターの名称は一部事務組合が発足してから、公募により愛称を含めて募集します。



次回は11月20日(木)に開催を予定しています。

第1回 (仮称)津山・英田圏域クリーンセンター技術審査委員会を開催しました。

10月3日、津山市役所久米支所2階大会議室において、第1回(仮称)津山・英田圏域技術審査委員会を開催しました。

委員6名(1名欠席)に委嘱状の交付が行われ、津山ブロックごみ処理広域化対策協議会長が、委員長に対し津山ブロックに最も適したごみ処理方式、事業方式の審議、評価をいただくよう諮問を行いました。

その後、委員会の役割、設置要綱、現在までの経過及び全体的なスケジュールの説明を行い、来年3月末までに処理方式、事業方式について答申を行うことを確認しました。



次回は、11月29日(土)に開催を予定しています。

ささゆりクリーンパーク(岐阜県可児市)に行ってきました。



10月17日(金)に、久米支部及び鏡野町郷地区の方々と「ささゆりクリーンパーク」に視察に行きました。往復10時間かかる遠方の視察見学にもかかわらず105名の方々に参加いただきました。参加者が多数であったため、各バスごとに3班に分けて見学を行い、最後はホールに集まり全員で質問をしました。



可燃ごみ処理施設は、ストーカー炉(240t/24h、@80t×3炉)+プラズマ式溶融炉(60t/24h)、不燃物処理施設(66t/5h)、最終処分場(溶融スラグ埋立地)、体験型宿泊研修施設、自然公園が整備されていました。

ささゆりクリーンパークのごみ処理について

～ クリーン可茂 平成20年7月発行より ～

< ごみの持ち込み量とその内訳 >

平成19年度にささゆりクリーンパークに持ち込まれたごみの量は、57,812t。平成18年度と比較すると総量で1.5%の減少(可燃物では0.8%)。一人当たりごみ量は、695gとのことです。

< 資源回収 >

平成19年度の資源回収量は次の表のとおりです。また、不燃粗大ごみ、不燃金物、不燃ガラス合わせて2,231.43トンのうち約57%(1,269.18t)が資源として出荷されました。

資源缶回収量		資源ビン回収量		不燃粗大ごみ、不燃金物、 不燃ガラスからの資源回収量	
スチール缶 	67.17t	透明ビン 	496.58t	鉄類 	1,251.40t
		茶色ビン 	453.14t		
アルミ缶 	18.85t	その他ビン 	132.92t	非鉄類 	17.78t

< 発電電力量 >

ささゆりクリーンパークでは、ごみを燃やした時に出る熱から発電した電気を施設内で利用しています。平成19年度は

蒸気タービン発電電力量	12,287,570kwh / 年間
総使用電力量	23,197,473kwh / 年間

施設で利用する電力の **53%** を発電しています。

< スラグ再利用量 >

溶融スラグは、敷地内の最終処分場に埋立を行っていますが、その内平成19年度は2,510.07tが再利用されました。

スラグ利用 目的	コンクリート 二次製品骨材	アスファルト 骨材	ブロック	その他製品	合計
利用量	1,164.25t	1,137.82t	205.40t	2.60t	2,510.07t

< 環境報告 >

定期的に、ダイオキシン類(年2回)及び溶融スラグに含まれる重金属類(年12回)の環境測定を行っています。

また、窒素酸化物などの大気汚染物質の測定は常時行っており、これらの数値は、広報誌で公開しているほか施設入口等の電光掲示板でいつでも確認できます。



電光掲示板では、ばいじん量、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素の測定値を、大気汚染防止法の基準より厳しい(組合で設定している)自主基準値と比較して表示しています。

< 施設内の電光掲示板 >

環境影響評価の現地調査を実施中です。

10月から、環境影響評価の現地調査を行っています。

空気中の大気汚染物質の調査は、赤岩公園、久米支所、農業試験場、鏡野南小学校の4箇所で測定を行いますが、調査精度の向上と施設稼働後の大気状況を比べるため、新たに2箇所で追加調査を行います。

追加箇所は、**津山市領家の桑田地区と鏡野町下原の下原下地区の2箇所です。**（ が、新たに追加した地点です。）

一般環境大気質の大気汚染物質調査は6箇所となります。（下図を参照してください。）

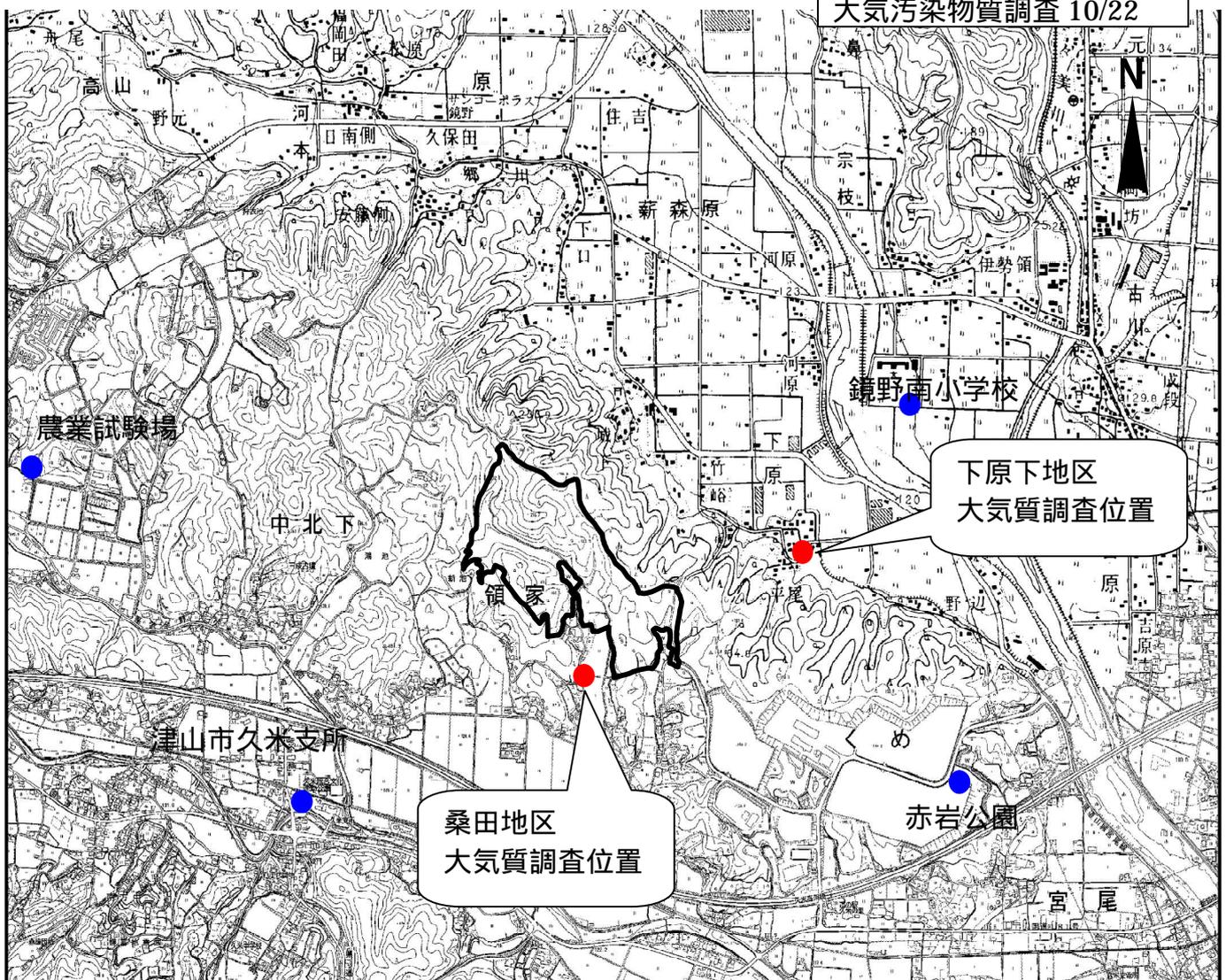
ご理解とご協力をお願いいたします。



上層気象調査 10/28



大気汚染物質調査 10/22



お知らせ

クリーンセンターだより第6号「特定有害物質」の表に一部誤り等がありましたので訂正します。

<訂正> (誤)揮発性物質 12種 (正)揮発性有機化合物 - 11種

また、「土壌殺菌剤:ジクロ」は「ジクロロベンゼン」や「ジクロルボス」などの俗称です。